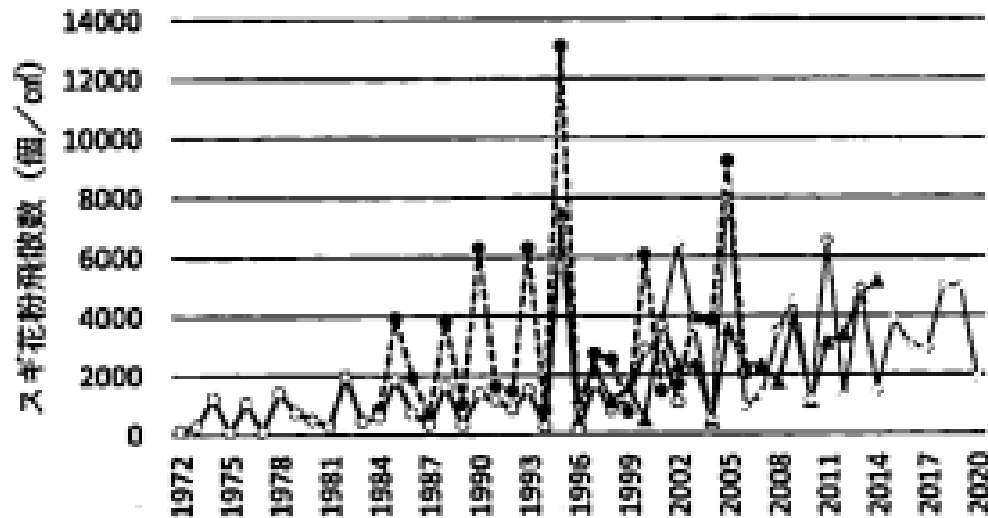


花粉発生源対策 これまでの知見

森林総合研究所
研究ディレクター
宇都木玄

1. 花粉量の時系列的推移

1980年代ごろからの、4地域でのスギ花粉数の推移



- 盛岡 (須藤ら, 2007)
- 新潟 (藤嶋・藤嶋, 2003)
- ▲ 大分 (渡辺・鈴木, 2016)
- ◇ 東京都心 (東京都福祉保健局, 2020)

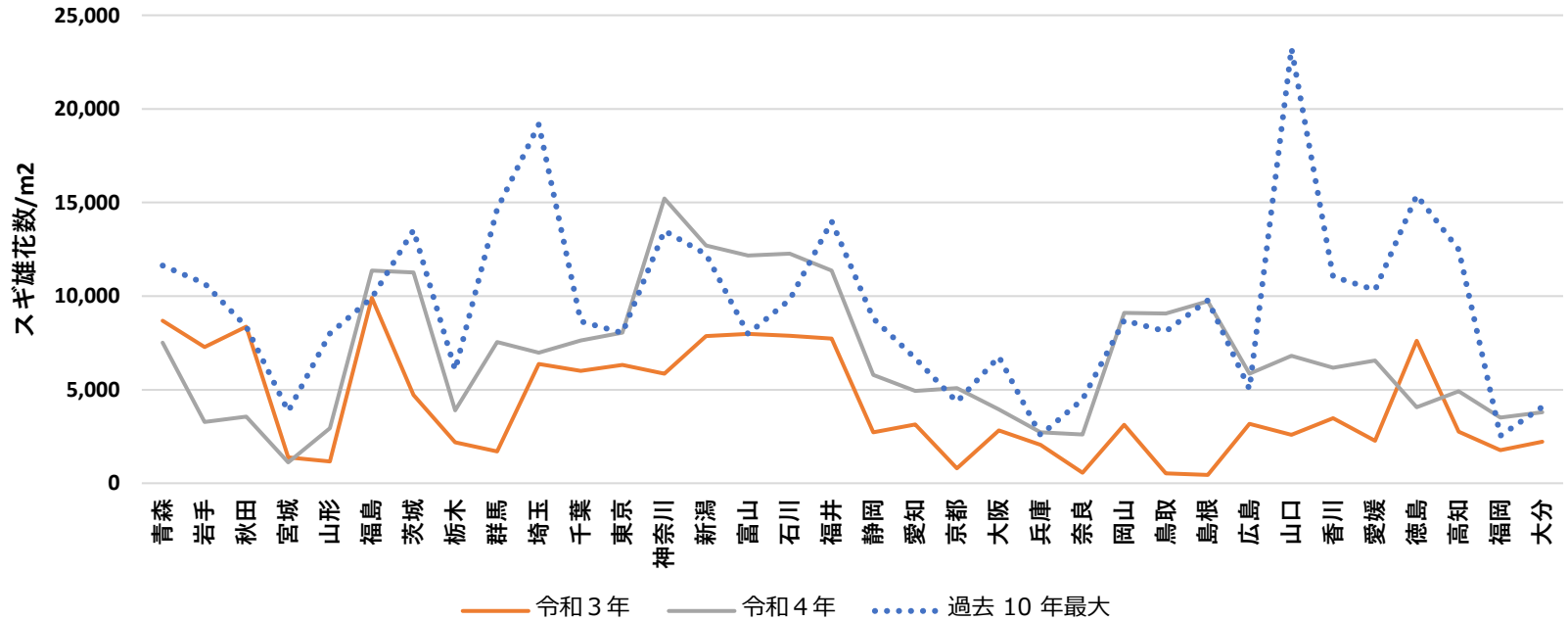
図1 スギ花粉飛散総数の年変化

出所) 元データ (図のカッコ内の論文) から作成.

時系列的に増加傾向がみられ、90年代ごろから波の振れ幅が大きくなっている

2. 雄花量の地域分布

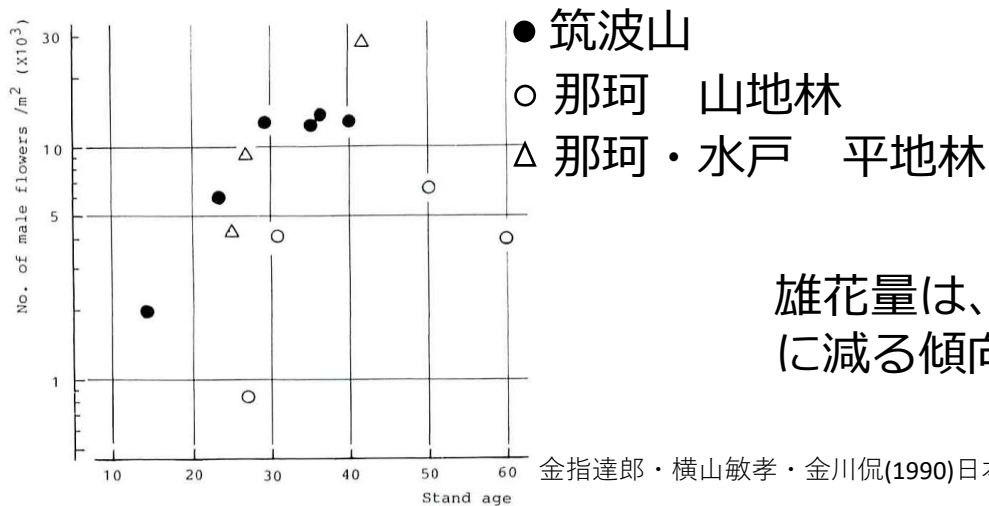
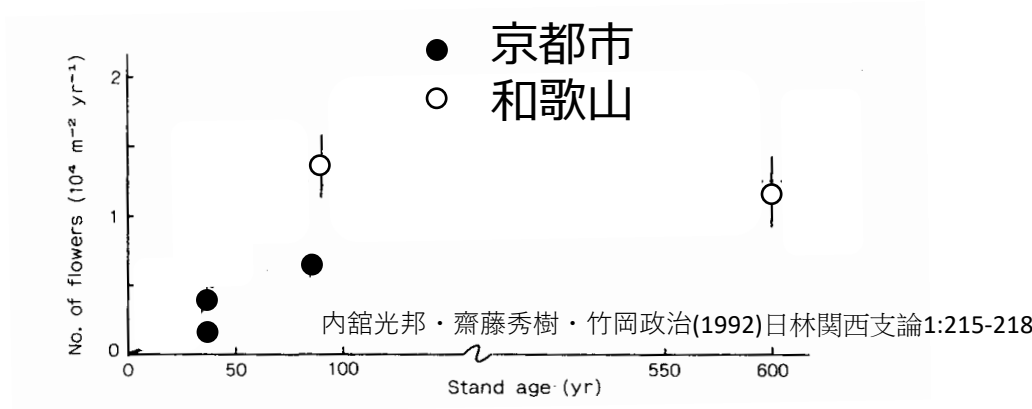
雄花着花量の調査による、全国の雄花数の分布



地域による大きな偏りは見られない

(九州の事例調査地点が少ない)

3. 人工林の齡級と花粉量



雄花量は、スギの標準伐期齡以降明らかに減る傾向は認められない

収穫期に達したスギ林を伐採利用することは、花粉量を減らすために有効

4. 研究開発の現状1

花粉量を予測するための
調査事業（林野庁・環境省）

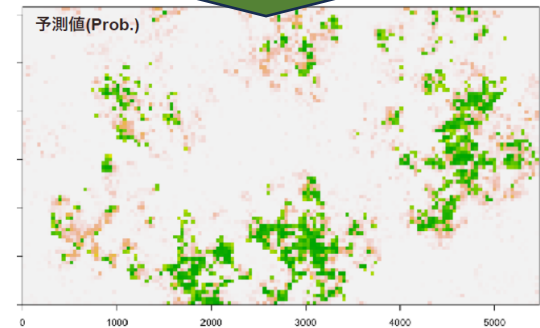
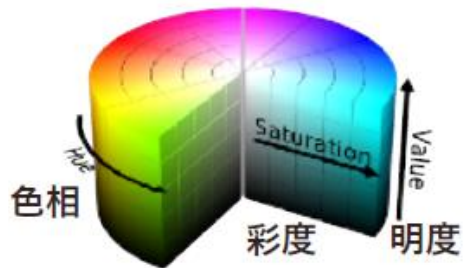
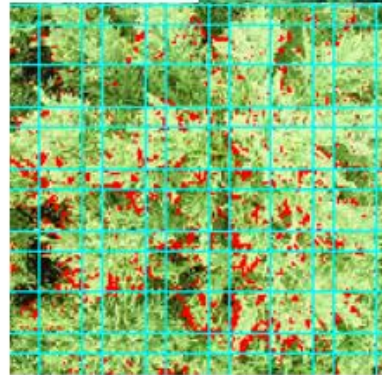


研究基盤整備
(森林総研)



①雄花量の判別方法

ドローンによる写真データ
を活用する！



4. 研究開発の現状2

花粉量を予測するための
調査事業（林野庁・環境省）



研究基盤整備
(森林総研)

①雄花量の判別方法



②雄花量の地域性



③AIを活用した
雄花量の多い林の条件の探索



👉ゾーニング手法の開発

雄花着生状態のランク分け



ランク A 非常に多い



ランク B 多い



ランク C まばらにある



ランク D 着いてない

事業による
データ蓄積